

『現象学の理念』

- 直観を出発点とする
  - 従来の哲学
    - 主観と客観を分けて考えていた
    - でもそれだと議論が収集つかずキリがない…
    - ⇒ 本質を見極めることが困難
  - 「現象学」
    - 「主観 vs客観」問題を一旦スルー
    - 直観で感じた部分に注目（主観が大事）



    - ⇒ 疑い得ないものに限りなく近づけて本質を見極める新たなアプローチ
- 世界は自分の意識でできている
  - 私たちの意識 ― つねに何らかの対象に向けられている
  - （例）コーヒーカップを見ているとき



    - コーヒーカップは、私の意識の対象として構成
    - ⇒ 受動的に世界を受け取っているのではない
    - ⇒ 能動的に意識を向けて世界を理解して意味付けている
  - 世界との関わり方
    - 私たちは世界から切り離された存在ではない
    - つねに意識を通して世界と関わっている
- 生活世界での他者との関わり
  - 現象学は「生活世界（日常の生活）」に焦点を当てる
  - 他者とともに生きる



    - 互いの主観的な体験をシェア（相互主観性）
    - （例）「このコーヒー美味いね」
    - ⇒言葉を交わすことで互いを理解できる
  - 相互主観性を通して、コミュニケーションを取ることができる